第４学年国語科学習指導案

１　単元名　　学習したことを生かして「ごんぎつね」

２　単元の目標

○　いたずらや後悔，償いをするごんの姿を通して，語り手の伝えたかったごんのひとりぼっちの寂しさを読み取ることができる。

○　場面の中心となる言葉や文をとらえ，場面と場面のつながりを考えながら指示語や文末表現を読む読み方を身に付けることができる。

３　単元の授業課題

○　めあてに沿った疑問や問題意識を引き出す工夫をしている。（④）

○　友達の考えや読み方のよさを全体に広げて気付かせている。（⑯）

○　考えの違いをもとに，読みを深める発問を工夫している。（⑲）

○　机間指導の時，全体の考えの傾向や実態を把握する工夫をしている。（㉝）

○　山場を作り，考えさせる場面を工夫している。（㊲）

４　子どもの実態と授業課題

○　本学級の子どもたちは，「三つのお願い」「白いぼうし」「一つの花」の学習で，人物の様子や気持ちを読む際に，中心となる言葉や文を手がかりにして，場面ごとに変わる人物の様子や気持ちを読み取ってきた。その中で，人物の行動に着目して，その箇所，その言葉から分かる気持ちを読むことはできるようになってきた。しかし，文脈に沿って言葉をたどり結び，自分の解釈を入れながら読むことは，まだ十分にできていない。また，場面の中の言葉を比べて読む読み方は身に付いてきたが，まだ部分的な読みにとどまっており，場面と場面とを比べながら読む読み方を使って，物語を通して貫かれている変わらない人物像や思いを読み取るまでには至っていない。

○　これまでの授業工夫改善の成果と課題から，本単元では，話し合いの中で，考えの違いをもとに読みを深める発問を工夫すること（⑲）と，机間指導の時，全体の考えの傾向や実態を把握すること（㉝）を重点的な授業課題として考えている。

　子ども一人一人の個性的な読みを板書して整理する中で，それぞれの考えの違いに気付かせることはできても，その違いをもとにより深い読みをさせることが十分にできなかった。話し合いの中で，より深い読みがどれなのか，何を根拠に比べたらよいのかを明確に問うことができなかったことが要因として考えられる。そこで，予想できる子どもの読みや考えに応じた効果的な発問を工夫して，子どもが叙述に即して考え，読みを深めていけるようにしていきたい。そして，「話し合ってよかった。」「話し合ったから読みが深まった。」と子どもたちが実感できるような話し合いをしたい。

　また，本単元の読み確かめでは，一時間の中で書き込みと話し合いを行っていくため，机間指導の仕方を工夫しながら子どもの読みをその場で把握する必要がある。あらかじめ子どもの考えや読みを予測して机間指導を行い，限られた時間の中で子どもたちの読みをできるだけ的確に把握していきたい。また，部分的な読みからたどり結ぶ読みができる子どもが一人でも多くなり，どの子も自信をもって話し合いにのぞめるように，適切な支援を個別に行っていきたい。

５　教材の考え方と授業の工夫改善

本教材は，冒頭に語り手「わたし」を登場させ，小さいころに聞いた話を読み手に伝える形で書かれている。６つの場面から構成され，自分の存在を兵十に認めてもらいたいと切に願うごんのひたむきな姿が描かれている。そこで，場面ごとに高まっていくごんの気持ちを，ごんの行動や心内語を手がかりに読ませながら，物語全体を通して変わらないごんのひとりぼっちでさびいしい心を読み取らせていきたい。そのために冒頭ではまず，語り手が小さいころ聞いた話を今も覚えていて，なぜ書いて伝えようとしているのかという問題意識をもたせて読み通しのめあてにつないでいく。そして，主人公ごんの言動に目を向けさせながら物語のあらすじをつかませる。その上で，読み手の立場から強く心に残ったことを予見としてまとめさせ読み確かめの視点を明確にもたせていく。ごんの兵十に対する思いが分かる叙述を中心文として，ごんの言動に対する子どもの疑問を引き出しながら，言動の奥にあるさびしい心を読み取らせていきたい。その際には，箇所から気持ちを考えるだけでなく，叙述をたどり結んで自分の考えをもたせ，解釈しながら読みを深めていくような発問を工夫しながら学習展開をすることで，どの子にも自分の読みのよさや深まりを実感させていきたいと考える。

6　単元の学習計画（全１6時間）

次	時	学　習　活　動	指導上の留意点（※工夫改善の項目）
読み通しのめあて	1／16	題名と冒頭の一文をつないで読み，読み通しのめあてを生み出す。	
		1　本時のめあてを確かめる。	○　既習の物語文を振り返らせて学習の構えをもたせる。
		2　題名について話し合う。	※「ごんぎつね」から予想できる内容や疑問を引き出す。(④)
		3　冒頭を読んで話し合う。	※　冒頭文の叙述に立ち止まって書き込みをさせる。(㉝)
		4　題名とのつながりを考え，語り手の思いを想像して読み通しのめあてを作る。 読み通しのめあて ①「ごんぎつね」とはどんな話だろう。 ②　この話の何が，語り手の心に強く残ったのだろう。	○「わたし」が語り手であることをおさえ，小さいときに聞いた話を今も覚えていて，それを物語として書いていることから，この物語の中に心に残ったこと，読み手に伝えたいことがあることに気付かせる。
予見	2・3・4・5／16	全文を読んでごんの行動からあらすじをとらえ，予見を書きまとめる。	
		1　１～６の場面構成をとらえる。	○　場面を示す数字，挿し絵，時間の経過を表す言葉を手がかりにして文章構成をとらえさせる。
		2　全文を音読する。 3　難語句を辞書で調べる。	○　範読を聞かせた後，はきはきすらすら読む練習をさせる。
		4　予見①をあらすじとして書きまとめる。	※　最初と最後の挿し絵から簡単なあらすじを全員につかませ，どのような経緯でそうなったのかという課題意識をもたせて場面ごとのあらすじをつかませる。(④) ※　机間指導で，支援の必要な子どもに挿し絵を手がかりにしながらごんの行動を書きまとめるよう促す。(㉝)
		5　予見①を話し合って見直す。	○　子どもが書いた予見①をカルテ化して話し合わせ，場面の順にごんの行動をとらえさせる。 ○　ごんの言動から，読み手である自分は何が心に残ったのかを予見②として書きまとめさせる。
学習計画	6・7／16	予見を話し合って見直し，読み確かめるための計画を立てる。	
		1　予見②について話し合う。	※　予見②の傾向や違いを把握しておき，意図的に指名しながら話し合わせ，考えの理由をあらすじの中からとらえさせる。(⑯)
		2　学級の予見を方向付ける。 予想される予見② ごんのやさしさ ごんのさびしさや悲しさ ごんの兵十を思う心	※　語り手の心に残ったことをはっきりさせるためにごんの兵十に対する思いを読めばよいことに気づかせる。　(④)
		3　学習計画を立てる。 読み確かめること ○　語り手は，ごんの何が心に残ったのだろう。 ①いたずらばかりするごんの気持ち ②あなの中でいたずらを後悔するごんの気持ち ③つぐないをするごんの気持ち ④「引き合わないなあ。」というごんの気持ち ⑤兵十にうたれてうなずくごんの気持ち	○　ごんの兵十への思いが分かる文を場面ごとに選ばせ，中心文として学習計画表に位置付ける。

読み確かめ①	8／16	いたずらばかりするごんの姿から，その奥にどんな心があるのかを読み確かめる。 1　本時のめあてを確かめる。 2　ごんのいたずらの理由を考えて書き込む。 3　いたずらをするわけを「ひとりぼっちの小ぎつね」とつないで話し合う。 4　いたずらばかりするごんの姿から確かめられたごんのさびしさを書きまとめる。	○　学習計画表をもとに，めあてを意識付ける。 ※「～たり，～たり。」の叙述に着目した疑問を引き出す。(④) ※　机間指導で，書き込みができていない子どもに個別に支援を行いながら，読みの傾向を把握していく。(㉝) ○　いたずらの結果，村人がどう反応するのかを考えさせ，ごんのさびしさを予見の確かめとして書かせる。
読み確かめ②	9／16	あなの中でいたずらを後悔するごんの姿から,その奥にどんな心があるのかを読み確かめる。 1　本時のめあてを確かめる。 2　ごんがあなの中で後悔するまでのあらすじをつかむ。 3　中心文「ちょっ，あんないたずら･･･。」に書き込みをする。 4　書き込みをもとにごんの気持ちを読み取り，話し合う。 5　後悔するごんの姿から確かめられたごんのさびしさを書きまとめる。	○　学習計画表をもとにめあてを意識付ける。 ○　音読で確かめさせる。 ※　指示語に着目した疑問を引き出す。(④) ※　机間指導で，書き込みができていない子どもに個別に支援を行いながら，読みの傾向を把握していく。(㉝) ※「あんないたずら」をどの叙述とつないだか問い返し、読みの違いに気付かせる。(⑲) ※　場面１のひどいいたずらと比べさせ，うなぎのいたずらをなぜここまで後悔するのかを問い，考えさせる。(㊲)
読み確かめ③前半	10／15	兵十をひとりぼっちにさせたと思いこむごんの姿から，その奥にどんな心があるのかを読み確かめる。 1　本時のめあてを確かめる。 2　中心文「おれと同じ，･･･。」に書き込みをする。 3　書き込みをもとにごんの気持ちを読み取り，話し合う。 4　兵十の後ろ姿を見てつぶやくごんの姿から確かめられたごんのさびしさを書きまとめる。	○　学習計画表をもとにめあてを意識付ける。 ※　机間指導で，書き込みができていない子どもに個別に支援を行いながら，読みの傾向を把握していく。(㉝) ※　文末「･･･兵十か。」からごんの気持ちを想像させ，それぞれの読みの根拠の違いに気付かせる。(⑲)
読み確かめ③後半	11／16	つぐないをくり返すごんの姿から，その奥にどんな心があるのかを読み確かめる。 1　本時のめあてを確かめる。 2　つぐないをくり返すごんの行動に書き込みをする。 3　書き込みをもとにごんの気持ちを読み取り，話し合う。 4　何日もつぐないを繰り返すごんの姿から確かめられたごんのさびしさを書きまとめる。	○　前時とのつながりからめあてを意識付ける。 ※　机間指導で，書き込みができていない子どもに個別に支援を行いながら，読みの傾向を把握していく。(㉝) ※　うなぎのつぐないといわしのつぐないの違いからごんの気持ちの高まりを読ませる。(⑲) ※　ごんがここまでつぐないをくり返すのはなぜなのかを問い，考えさせる。(㊲)
読み確かめ	12／16（書	自分のつぐないに兵十が気付いていないことを知ったごんの姿から，その奥にどんな心があるのかを読み確かめる。 1　本時のめあてを確かめる。 2　場面５の中心文に至るまでのごんの行動を確	○　学習計画表をもとにめあてを意識付ける。 ○　場面４，５の「つけていきました」や「かげ

④	き込み）	かめる。 3　中心文「･･･引き合わないなあ。」に書き込みをする。	ぼうしをふみふみ行きました」から，兵十に近づきたいと願うごんの気持ちを読み取らせる。 ※　机間指導で，書き込みができていない子どもに個別に支援を行いながら，読みの傾向を把握していく。（㉝）
	13／16（話し合い）	1　本時のめあてを確かめる。 2　書き込んだことをもとに話し合う。 (1)「こいつ」が指す箇所から (2)「おれ」のくり返しから (3)「引き合わないなあ。」の文末表現から 3「･･･引き合わないなあ。」というごんの姿から確かめられたごんのさびしさを書きまとめる。	○　前時を想起させめあてを意識付ける。 ※　加助と兵十の会話文のどちらを指しているのか，前の場面とつないで考える発問をして気付かせる。（⑲） ○　読みの違いを音読で確かめさせる。 ○　ごんがこの後，穴に帰ってどんなことを考えたのか想像させ，書きまとめさせておく。
読み確かめ⑤	14／16本時	ぐったりと目をつぶったままうなずくごんの姿から，その奥にどんな心があるのかを読み確かめる。	
		1　本時のめあてを確かめる。 2　中心文に書き込みをする。 3　書き込みをもとにごんの気持ちを読み取り，話し合う。 4　目をつぶったままうなずくごんの姿から確かめられたごんのさびしさを書きまとめる。	○　学習計画表をもとにめあてを意識付ける。 ※　場面５の終わりとつないで考えさせ，つぐないを続けるごんに対する疑問を引き出す。（④） ※　机間指導で，書き込みができていない子どもに個別に支援を行いながら，読みの傾向を把握していく。（㉝） ※　読みの違いからごんの気持ちの葛藤に気付かせる。（⑲） ○　場面３のごんの行動との違いに気付かせ，自分の存在を兵十に気付いてもらいたいというごんの思いを読み取らせる。 ○　話し合う前と後で読みがどう深まったのかを書かせる。
読みのまとめ・読み方のまとめ	15・16／16	ごんのひとりぼっちのさびしさを読み確かめた読み方をふり返り，題名に込められた語り手の思いについて考える。	
		1　ごんのひとりぼっちのさびしさを読み取った読み方を場面ごとにふり返る。 2　題名の意味と働きについて考え，話し合う。 3「ごんぎつね」の学習を振り返り，心に残ったことを書きまとめる。	○　読み方のふり返りがしやすいように，学習計画表とこれまで読み確かめてきた学習内容を側面の掲示物に残しておく。 ○　指示語や文末表現等，この単元で使った読み方をカードで示しておく。 ※　読み確かめ⑤を想起させ，題名にもどって考えさせる中で，「ごん」ではなく「ごんぎつね」という題名になっているわけを解釈させる。（④，⑯，⑲） ○　既習の「白いぼうし」「一つの花」とつないで，題名が作者の最も伝えたいことを象徴していることをつかませる。 ○　読み取ったことをもとに，ごん，兵十，語り手のいずれかに伝えるという形で書きまとめさせる。

７　本時（１４／１６）読み確かめ⑤

８　本時の目標

○「引き合わない。」と思ってもなお，兵十にくりを持って行き，兵十にうたれてうなずくごんの様子や気持ちを読み取り，ごんのひとりぼっちの寂しい心を読み確かめることができる。

○　ごんの行動の奥にあるひとりぼっちの寂しさを読むために，場面と場面を比べる読み方や呼称の変化を読む読み方を理解することができる。

９　本時の授業課題

○　めあてに沿った疑問や問題意識を引き出す工夫をしている。(④)

○　考えの違いをもとに，読みを深める発問を工夫している。(⑲)

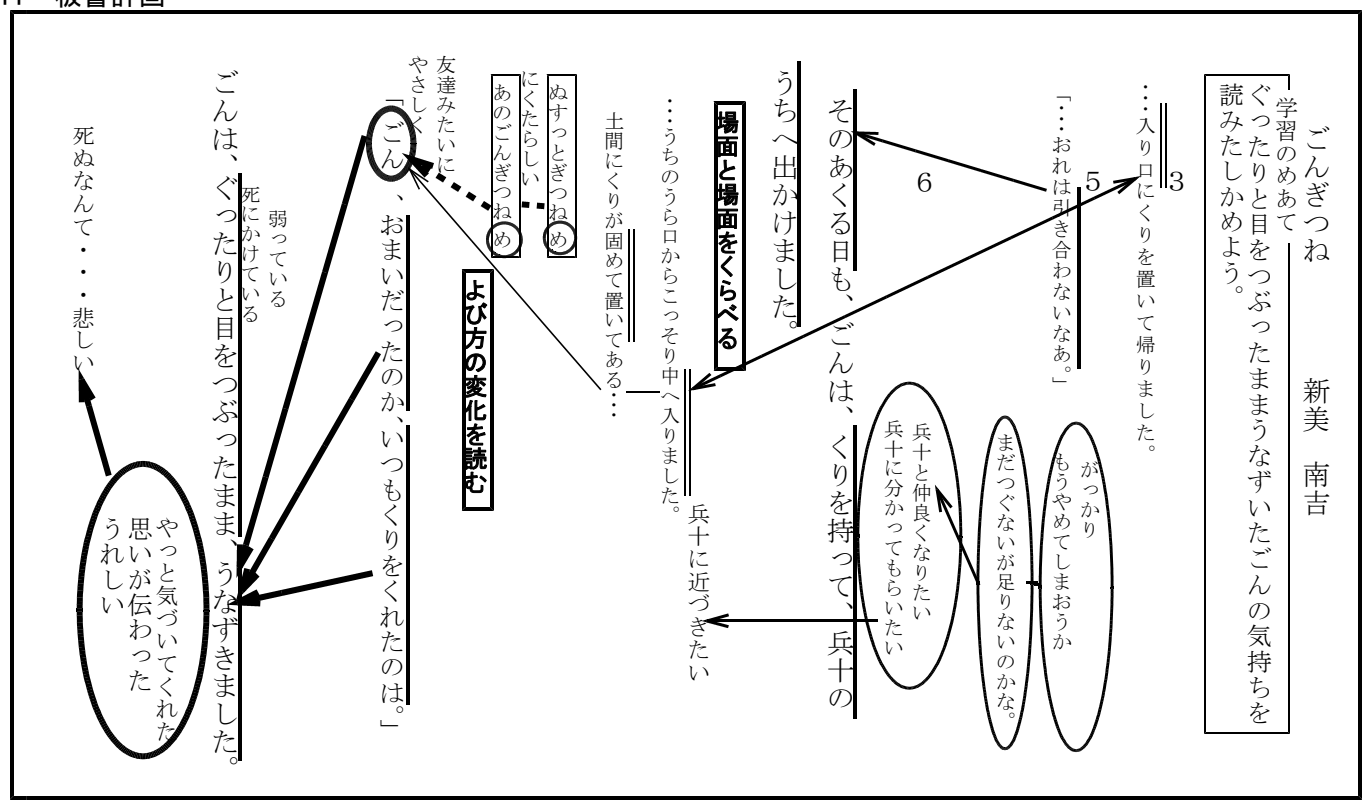
○　机間指導の時，全体の考えの傾向や実態を把握する工夫をしている。(㉝)

10　本時の授業の工夫改善の考え方

○　前時までに子どもたちは，兵十が自分の存在に気付いていないことを知ったごんの気持ちや様子を読み取っている。本時は，「引き合わないなあ。」と思いながらもつぐないを続ける姿，兵十にうたれてもうなずく姿からごんのさびしさ，悲しさを読み確かめる学習である。

○　本時では，「その明くる日も，ごんは，くりを持って，兵十のうちへ出かけました。」「ごんは，ぐったりと目をつぶったまま，うなずきました。」の２つの文を中心文として書き込みと話し合いをさせて，ごんの様子や気持ちを読み取らせたい。書き込みの際には，場面５の「引き合わないなあ。」とがっかりするごんの姿と比べて，それでもつぐないを続けるごんの行動に疑問をもたせるようにする。また，この物語の山場である最後の場面で，兵十にうたれたごんがうなずく姿を，前の場面と比べながら考えて自分の読みが作れるよう，明確な指示をして書き込みをさせたい。この際に，机間指導で，子どもの読みの傾向を把握しておき，話し合いの中で読みが深まっていくよう指名や問い返し，読みの評価を工夫していく。そして，場面と場面を比べながらごんのひたむきな姿を読み取らせ，語り手の心に残ったごんの寂しさや悲しさに気付かせていきたい。

11　板書計画



12　本時の展開

学　習　活　動	指導上の留意点（※工夫改善の項目）㊥評価
1　本時のめあてを確かめる 学習のめあて ぐったりと目をつぶったままうなずいたごんの気持ちを読み確かめよう。	○　前時までの学習を想起させ,学習計画表からめあてを意識付ける。
2　中心文に自分の考えを書き込む。 (1)中心文を音読する。	○　場面５の「･･･おれは，引き合わないなあ。」の叙述と場面６の中心文をあらかじめ板書しておく。
(2)書き込みの視点をもつ。 ①なぜまたくりを持っていくのか	※「その明くる日」が何の明くる日なのかをおさえ,「引き合わない。」と思いながらもつぐないを続けるごんの行動に疑問をもたせる。(④)
②ぐったりとはどんな様子か ③なぜうなずいたのか	○　書き込みの仕方を明確に指示する。 ①･･場面５とつなぐ　②･･前の叙述とつないでどんな　態か ③･･場面３，４，５，６の叙述と必ずつなぐ
(3)書き込みをする。	※　机間指導で，支援が必要な子どもに書き込みの仕方を助言するとともに，カルテを使って読みの傾向を把握する。(㉝) ㊥　場面３，４，５，６の叙述とつないでごんの様子や気持ちを考え，読み取り　　に書き込んでいる。
3　書き込みをもとに話し合う。 (1)がっかりしたあくる日もくりを持っていくごんの気持ちを想像する。	○　前時の終わりに想像したごんの気持ちとつないで考えさせる。 前のばんにごんはあなの中でどんなことを考えたのでしょう。 つぐないをやめてしまおうか。 ここでやめたらつぐないにならない，続けよう。 どうしても兵十に分かってもらいたい。 ※　場面３と比べて考えさせ，ごんの行動の違いからつぐないを続ける気持ちを読み取らせる。(⑲) 兵十に近づきたいというごんの気持ちが分かる行動が，どこかに書かれていませんか。
(2)ぐったりと目をつぶっているごんの様子を読み取る。	○「ド　とうちました。」「ばたりとたおれました。」とつないでごんが　死の　態であることをとらえさせる。 ○　兵十が，なぜごんだと気付いたのか，前の叙述とつないで考えさせる。
(3)うなずいた時のごんの気持ちを読み取る。	○「ごん，おまいだったのか，いつもくりをくれたのは。」の音読とつないでごんの気持ちを考えさせる。 こう言われて，ごんはどの言葉が一　うれしかったのかな。 ※　初めて「ごん」と呼ばれたことに気付いている読みを評価し，呼称の変化から兵十の気持ちの変化に気づかせる 。(⑲) ○　呼称の変化から兵十の気持ちの変化を読ませる。 ○　こんなごんを読者としてどう思うかを問い，死ぬまで人と心を通わせることができなかったごんのさびしさが語り手の心に残ったことに気付かせる。
4　本時の学習を振り返り，書きまとめる。 (1)読み取ったごんの気持ちや様子を振り返る。	○　読み取ったごんの気持ちを，板書の中の　ー　ードを指してたどり結びながらながら振り返らせる。
(2)目をつぶったままうなずくごんの姿から予見がどのように読み確かめられたかを書きまとめる。	○　学習する前や話し合う前の自分の読みがどう深まったのかを書かせるようにする。 ㊥　兵十と心を通わせたいというごんの切実な願いを自分の言葉で書きまとめている。